

事業の基礎情報

実施主体	株式会社南紀白浜エアポート
事業実施地域	白浜町（和歌山県）
共創の類型	官民共創 ・ 交通事業者間共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	観光・まちづくり
共創パートナー	南紀白浜エアポート、JR西日本、明光バス、谷口自動車、Traffic Comfort、白浜第一交通、アイシン、JTB、白浜町、和歌山県
運行形態	AIデマンド交通（オンデマンドバス）
運行主体	明光バス、谷口自動車、Traffic Comfort、白浜第一交通

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

白浜空港、白浜駅および周辺地域では、タクシー運転手の減少および高齢化により慢性的なタクシー不足が継続的に発生している。今回、オンデマンドバス運行によりシームレスかつストレスレスな移動を実現するとともに、観光客（インバウンド含む）および地元住民の両方を誘客することにより、観光地の高度化および高付加価値化と自律した地域交通の構築を目指す

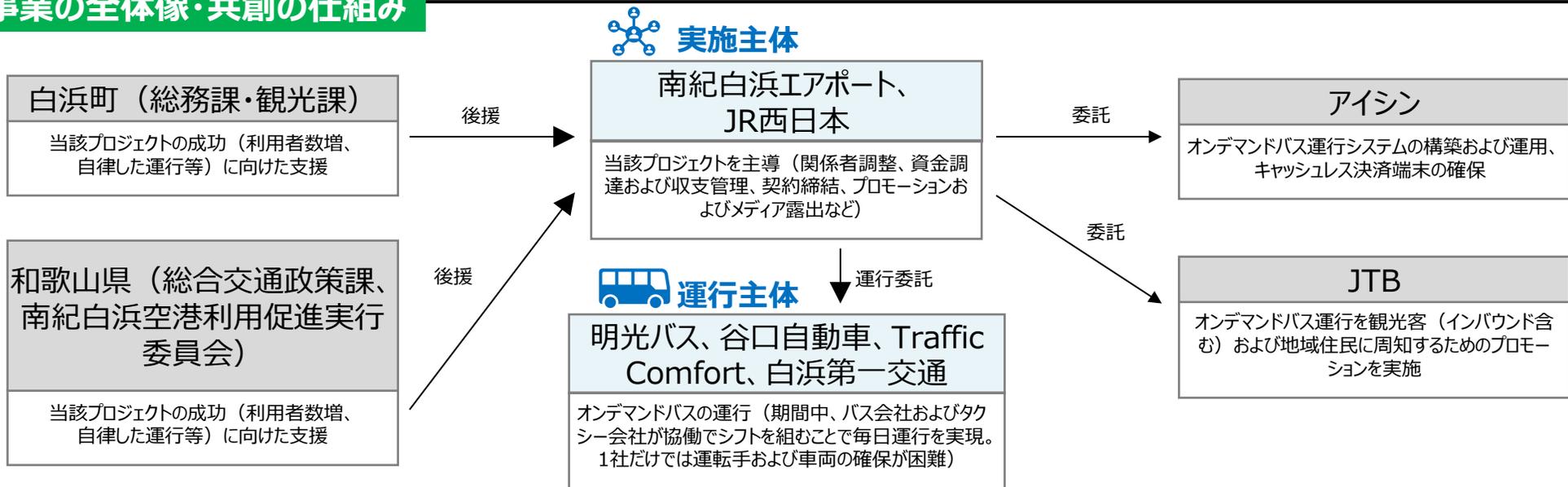
（事業の概要）

概要：バス停を白浜町に18箇所設置（バス停以外での乗降は不可）。専用サイトから事前予約したお客様のみ利用可能
ルート：お客様の予約（＝希望時刻および乗降バス停）に応じてAIが最適ルートを抽出、お客様に案内
期間：R6年10月1日～R7年2月25日、運行時間：12:00～23:30 ※毎日運行、車両台数：1-2台/日、料金：大人680円、子供340円（決済手段は現金・クレジットカード・交通系IC・QR等が可能）、予約方法：WEBのみ、対応言語：11言語

観光×交通の高度化を実現するAIオンデマンド交通

空港×鉄道×バスが共創する白浜ワンチーム

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

- 空港と鉄道の協働：首都圏では競合（例：飛行機vs新幹線）すること多い、空港と鉄道が連携することにより、空港および駅に到着した観光客（インバウンド含む）およびビジネスマンの二次交通の利便性を協働で向上。それにより、観光地およびワーケーション聖地としての白浜町の魅力を高めることにより交流人口の増加を図る
- 交通事業者と自治体の連携：交通事業者が自分ごととして地域の交通課題解決を目指し、自治体はその取組みをサポートする体制を構築。観光客だけではなく地域住民の利用も呼び込み、当該バスの利用者の増加および事業自律の可能性を高める

(実証事業により見込まれる効果)

- 空港および駅に到着した観光客（インバウンド含む、予約サイトは11言語対応）およびビジネスマンの二次交通の利便性を向上。それにより、観光地およびワーケーション聖地としての白浜町の魅力を高めることにより交流人口の増加を目指す
- 比較的消費単価の高い観光客およびビジネスマンの誘客により、町内総生産および地域住民の所得向上を実現させる

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

事業実施に向け、以下のスケジュール、実施項目、および主な実施者を予定しています

実施項目	主な実施者	2024年										2025年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
補助金交付申請	南紀白浜エアポート JR西日本	■												
関係機関との事前協議	南紀白浜エアポート JR西日本		■	■	■									
オンデマンドバス運行システム構築	アイシン				■	■	■							
広報物制作および事前PR	JTB					■	■	■						
オンデマンドバス運行	バス会社およびタクシー会社（計4社）								■	■	■	■	■	
実績取り纏めおよび報告	南紀白浜エアポート JR西日本											■	■	

(補助事業実施後の予定)

- **適正な運賃設定を継続**：1乗車あたり、大人680円小人340円という運賃を設定。取組みを持続するため、短期的な利用者数確保を目的とした安価な料金設定は実施しない。一方、キャッシュレス決済端末の設置など、適正運賃に見合う付加価値を提供することにより安定した需要確保を目指す
- **新たな収入源を確保**：運賃収入に加え、協賛金（バス停を設置する施設事業者からの協賛）、広告収入（車両ラッピング等）を新たな収入源に想定。今年度の運行を踏まえ、運行頻度、走行ルート、料金等を最適化した上で、具体的かつ自律的な事業計画を構築、次年度以降の継続を目指す
- **観光客と地元住民のハイブリッドタイプ化**：一運行あたりの需要ボリュームを確保するため、観光客やビジネスマンのみならず、地元住民が利用しやすい仕組みを構築。並行して、オンデマンドバスの相乗り率を高めるため、PDCAを回しながら必要なシステム改修を実施